



新宿小だより

学校教育目標

やさしく

かしこく

たくましく

6月の生活目標：友達となかよくしよう 児童数560名 令和8年6月号

自分のものさしで考えられる児童の育成 ～本当にこれでいいのかな～

校長 横田 亜希子

先日、授業の様子を見に教室を回っていた時の出来事です。あるクラスが、作文の学習に取り組んでいました。課題は「人権に関すること」。事前に担任から「人権」に関する指導があったのでしょう。黒板には「ふわふわ言葉とちくちく言葉」「十人十色」「相手の立場に立って考える」など、子どもたちから出された様々な意見が書かれていました。ふと、ある児童の原稿用紙をのぞいてみると、まだ書き始めたばかりなのか、一枚目の原稿用紙の最初に「友達と仲良くすることは大切だと思う」と書かれたまま鉛筆が止まっています。「どうして大切だと思うのかを書いてみたら？」と声を掛けると、「そっか！」と嬉しそうな顔をして、Chromebookを開き「友達と仲良くする理由」と検索し始めました。

学校では文房具のように、ICTが子供たちの手足となって活用されています。大人の想像を超えるスピードで使いこなす子供たちを頼もしく感じる一方、自分で考えずとも正解（のように見える）情報が瞬時に手に入ってしまう環境に危機感を感じています。また「出てきた情報の真偽を見極める力」や「膨大な情報から必要なものを選択する力」の育成は、これからの時代を生きる子供たちが必ず身に付けなくてはならない力であることは間違いありません。

日常生活においても、「本当にこれでいいのかな」と自分の価値観をもち、周囲に流されることなく判断する習慣を身に付けさせたいと考えています。「本当にそうかな」「別の視点ではどうだろう」「みんなやっているけど、正しいのかな」など、クリティカル（批判的）な問いかけにより、子供たち自身が思考する場面を創出しながら、自分で考え、自分で選び、その結果を振り返る経験を積み重ね、自立へと導く指導を大切にしていきます。

自分のものさしで考えられる児童の育成 ～本当にこれでいいのかな～

今年度の重点目標として取り組んでまいります。ご家庭でも子供の自己決定を尊重し、結果を振り返る時間を取りながら、正しい判断力を育てる声掛けをよろしくお願いします。

